

平成 18 年度「親子でいく みなと学習見学会」in 函館 の開催について

日時 平成 18 年 7 月 26 日 (水)

9:00~16:00

場所 函館港

主催 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク

後援 北海道開発局函館開発建設部
函館市



私たちの暮らしの身近にある港について、どんな施設があり、どんなことが行われているかを見学し、その役割・重要性を広く知って貰おうと夏休み期間を利用して、親子で一緒にみなとの役割を学習する見学会を今回は歴史と文化の港町、函館で開催しました。参加者は小学 3 年以下 6 名を含む小学生 24 名と保護者 19 名の計 43 名が参加しました。

当日は久しぶりの快晴に恵まれ、受付開始前から、参加者が集合場所の函館港湾事務所に集まりました。出発時刻までの待ち時間に、事務所内にある函館港の航空写真、岸壁や防波堤の模型の説明を事務所の職員から受けました。バスが到着して全員が乗り込み、主催者の大野事務局長の挨拶の後、予定通りの学習見学に出発しました。学習見学コースは下記の通りですが、港町多目的国際ターミナル埠頭では埠頭の役割、岸壁の深さや接岸出来る船舶の大きさ等について函館港湾事務所の千葉第 1 工事課長の説明を熱心に聞いていました。

また函館の街と港とに深い繋がりのある高田屋嘉兵衛像やアメリカ東インド艦隊司令長官ペリー像の前では、彼らの果たした役割や函館開港時のエピソードなどについて、みなとづくり女性ネットワークの会員でもある(バス)ガイドの森さんの話に子

供も大人も興味深く聞いていました。

その後、西埠頭に接岸している帆船海王丸を車中から見て、函館の全市街と港全体を見下ろせる函館山に向かいました。快晴に恵まれた函館山では天然





の良港と言われる港の説明と函館市街の素晴らしい景観をしばし堪能しました。その後、再び港に下りて、一部公園として利用されている埋め立て地“緑の島”で、女性ネットワーク会員による心づくしの手づくり弁当を受け取り、親子それぞれが新緑の芝生の上で、昼食を楽しみました。

食事後、函館市役所（港湾部主任）の藤田さんから、緑の島の成り立ちの経過と現在の利用状況について説明が行われました。公園は現在ペット連れ込み禁止で、市民がいつも清潔に使えるように配慮しているとのこと。

午後からは、全国的にもその活躍が注目されている市内の企業2社を見学しました。

最初に、いか釣り機の自動化にいち早く取り組み「イカ釣りロボット」を開発し、世界シェアトップの企業として知られる㈱東和電機製作所で、常務取締役の浜出さんから、研究開発から事業化までの苦労話と自動化された釣り船がいかを大漁にする様子



をビデオなどで見たあと、機械の製作状況や新しい集魚灯の開発の様子など見学した。

それから、㈱竹田食品では 係長の村上さんから、新鮮な^いかが、^しお^からになるまでの工程について説明が有り、外国に一部輸出するため、厳しい品質管理（HACCP：食品の安全衛生管理の国際規格）に基づいて、自動化された製造工程部門とたくさんの人々が働く製造部門の2ブロックの工場を普段あまり見られない個所まで見学させてもらいました。地元で最も身近な魚介に関連した企業が函館で大活躍していることに子供達も大変興味深く感じたようでした。帰りに^いかし^おか^らのおみやげをもらい、予定の見学を全て終了しました。「北海道みなとづくり女性ネットワーク函館」代表の折谷さんの挨拶の後、函館港湾事務所に元気に戻りました。その後アンケート用紙の回収と後日の感想文をお願いして、記念グッズを全員に渡し、散会になりました。

今回、ボランティアで案内役を引き受けていただき、子供達にもわかりやすく説明していただいた千葉課長を始め、函館港湾事務所の職員の皆様、工場の見学を快く引き受けて、案内をいただいた2社の方々、そして「北海道みなとづくり女性ネットワーク函館」代表の折谷さん、佐藤さん、バスの名ガイドの森さん、こころづくしの弁当を用意していただいた星野さん、子供達の安全に気配りいただいた石田さん等女性ネットワーク会員の素晴らしい協力と㈱高木組、㈱松本組の方々に大変な尽力をいただいたことに感謝します。

親子でいく

みなと学習見学会の感想・おたより

「港学習見学会」に参加して



附属小学校 6年 佐々木 那奈美

私は、函館生まれ函館育ちです。「海」に囲まれた街に住んでいますが、海との係わりは、年に一度くらい泳ぎに行く事と、「港」へは、花火大会を埠頭に見に行ったり、緑の島に一度、釣りに行った事があるくらいです。

私は、この見学会で、たくさんの事を学ぶ事ができました。埠頭によって深さが違う事。その深さによって着く船の大きさ、種類が変わる事。私は、夏休み中に父に頼んで、もう一度埠頭めぐりをしてもらいました。ロシア船、韓国船、マレーシア船、色々な国の船が出入りしていました。函館港は、輸出入国の窓口だという事を実感しました。またペリー、高田屋嘉兵衛も良く耳にする名前でしたが、函館との関係が改めて良くわかりました。この二人が、箱館に目を向けてくれなかったら、函館は港町として、これほど発展しなかったと思います。今度、地方から誰かが観光に来た時、胸を張って、銅像の前で説明してあげられる事がうれしいです。

私は、この見学会で楽しみだったのが、企業の見学です。私はイカが大好きで、名産のイカを釣る事にも、何度も研究を重ね、改良して現在のイカ釣り漁がある事が、説明で良くわかりました。塩からも、私が想像していたイメージとは、全然違って、ほとんどが機械化され、衛生的な工場でおどろきました。

港を作って管理する人、輸出入の仕事にたずさわる人、漁の機械を開発する人、漁師さん、加工する人。それぞれの役割がつながり、その力が一つとなっ

て港町函館の水産業を支えているのだと私は思いました。

私に出来る事は、海を汚さない事くらいしかないけれど、函館の海、街を大事にしたいと思いました。函館山から見た海は、いつもより光って見えました。ありがとうございました。

「東和電機製作所を見学して」



港小学校 4年 梅田 真衣

私は、ラセン軸というものを見てなんだろうと思いました。

なぜかという、ねじのようなぼこぼこがついていたからです。

もう1つはイカロボという機械がすごいと思いました。

それは一度にあみに喰い付いたイカをのがさないからです。

このきかいができた時、漁師さんたちはとてもよろこんでいたそうです。

私も一度イカ釣り漁船に乗ってみたいです。



「心に残った竹田食品」



港小学校5年 梅田 和歌子

私はいかを作るのがこんなに大変だとは思いませんでした。竹田食品の中で働いている人は、作業場に入る前、きびしい検査を受けなければなりません。

その後、作業場でいかをしておからにします。家に帰って竹田食品のしおからを食べた時、竹田食品の人達が一生けん命作った味が口に広がりました。

竹田食品を見学して思ったことは、機械を使っている所もあるけどほとんど手作業なので大変だなと思いました。これからも竹田食品には手作業の味を大切に、作ってほしいです。

「親子でいくみなと学習見学会」に参加して



梅田 史 恵（保護者）

申込み時に「こんなにハードなスケジュールで大丈夫なのか？」と期待と不安でバスに乗り込みました。

観光都市函館市民として「どれだけ函館の魅力を語ることができるのか」「もっともっと愛すべき函館を知りたい」というのが動機であった。

当初2年前、港3丁目に「また新しいふ頭が必要なのか」と素朴に思った。『この水深14m岸壁ができたことにより、大型の貨物や客船などが利用可能となった』と港湾の方が、詳しく説明してくれた。

また、高田屋嘉兵衛の像、ペリーの銅像、日本最古の四角の電柱 etc. 今まで立ち止まって見た事のない名所の数々を「この話で右にでる人は…」と思うほど熱き思いで話して下さったガイドさん。語りに引き込まれ、午前中はあっという間に過ぎ、昼食時間がやってきた。渴いたのどを潤すガンガンに冷えた飲み物、お弁当はなんと、ボリューム満点の手

作り幕の内、包には、「みなと学習見学会オリジナルおべんとう」と手作り印刷、緑の島でいただいた昼食は、関係者の方の心尽くしがちりばめられて、雲一つない青空のもと、心まで満たされるものであった。

午後からは、普段個人では行けぬ「東和電機製作所」「竹田食品」の見学。函館の代表的なイカに支えられ、それをイカし、大きく成長した企業の理念に感服し、微力ながらと夕食はイカづくしに!!

充実した内容だったが、長時間の為、やはり子供は高学年以上という募集は妥当であったと感じた。

みなとの周りはまだまだ知らないことだらけ…。

次回も視点を変えた取り組みを楽しみにしております。

関係者の皆さん、ありがとうございました。

親子でいくみなと学習見学会に参加して



砂 原 紀 子（保護者）

この度は楽しい見学会をありがとうございました。

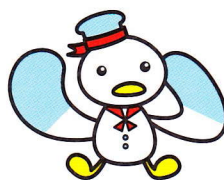
今でも孫と昼の函館山きれいだったとか新しいみなと大きかったとか話しています。

ただイカ取りの映ぞうは見ましたが、実さいには見てないので機械が動いていると良かったと思います。

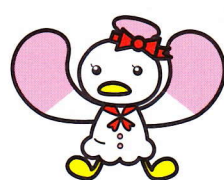
孫は塩からが大好きなので「イカはどうやって切るとか」子供なりに考えていたみたいでした。

私達は説明でもいいのですが子供は実際に目で見の方が分るのではないのでしょうか。

これからも楽しい事考えて下さい。お待ちしております。



ぼーとん



べいくりん